

放送 放送

No. 45

2012. 2

■事務局/名古屋市大森保育園

〒463-0021 名古屋市守山区大森3丁目504

TEL (052) 798-0082

■発行者/愛知県幼児視聴覚教育研究会

会長 伊東 世光

●『テレビ視聴の・・・』

●第49回 東海北陸地方放送教育研究大会 報告

第43回 愛知県放送教育特別研究会 報告

●第43回 愛知県幼児視聴覚教育研究大会 報告

●第44回 愛知県幼児視聴覚教育研究大会 案内



研修保育園 5歳児

第49回 東海北陸地方放送教育研究大会 第43回 愛知県放送教育特別研究会

未来を拓く学びの場を創造しよう

日時：平成23年8月19日(金)

会場：ウインクあいち

講師：NPO法人ガイア・イニシアティブ
代表 野中 ともよ 氏

講演「幼児期からのメディア教育」

～レッツ!コミュニケーション～

コミュニケーションによって・・・

- ・分かりあえることが目的でとても大切なこと
- ・自分達の手で石のように硬いものを拓いていく
- ・違いのあることの面白さ、世界中が違っているからおもしろい



提案1

岐阜県 学校法人城北学園 かぐや第二幼稚園
梅川 油依子 氏

「感じたことや考えたことを自分なりに表現する楽しさを味わう」

- ・廃材あそびをテーマにした番組を継続して視聴することで、刺激を受けたあそびに自ら挑戦し、工夫する姿が増えた。
- ・友達や異年齢の子とのあそびが深まり、表現する自信へとつながった。

提案2

愛知県 名古屋市立吹上幼稚園
池田 紀代美 氏

「身近な環境に心を動かし、生き生きと遊ぶ幼児の育成」

- ・幼児が興味をもっている身近な虫をテーマにした番組を視聴し、更に親しみを持つきっかけとなった。
- ・教師の丁寧な関わりにより、生き物への興味が広がり、愛おしいと思う気持ちが深まった。

助言者

岐阜県：岐阜市立加納幼稚園
豊吉 久実 氏
愛幼視：研修保育園
野田 久美 氏

- ・メディアは道具であり、家庭での視聴・園での視聴の意味づけを明確にする。
- ・子ども達の生活を豊かにするためには、視聴覚教材は有効である。
- ・視聴覚教材は、保育者の感性によっていかようにも利用できる(生殺与奪)

テレビ視聴の効果について、考えてみませんか!!

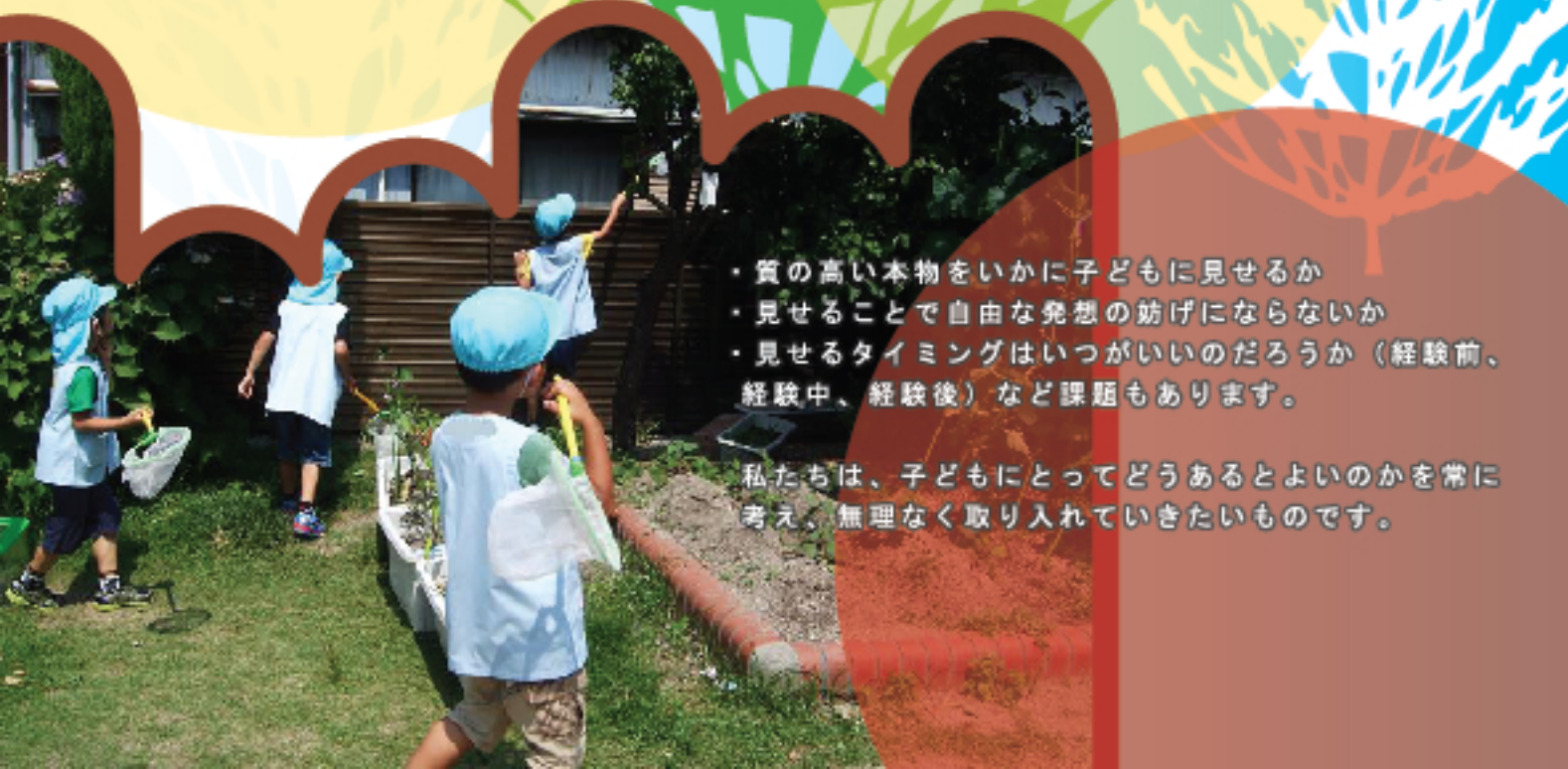
子どもがアゲハチョウの幼虫を飼育ケースに入れて、毎日様子を見ています。
「大きな口をあけて、パクパク(葉を)食べてるよ。」「幼虫、緑になった」「あつ、さなぎになってる。」
と気が付いたことを言っています。
時には、図鑑を手に、さなぎの様子を比較していることもあります。
ある朝、幼虫はアゲハチョウになっていました。
「すごい、アゲハチョウになった」「いつ(アゲハチョウに)なったんだろう?」
「夜に(アゲハチョウに)なったんだ。」「そうだよ、夜に(アゲハチョウに)なるんだよ」
「(どうやってなったか)見たかったな」
うれしさの中に、疑問や残念な思いも残りました。



生活の中で、こういった場面に出会ったことはありませんか?
こんな時、あなたならどうしますか?この時、保育者は、「しぜんとあそぼ」を利用して、“チョウ”を視聴しました。実際に見られなかった、さなぎからアゲハチョウになる様子をじっと見つめ、そのうちに「あと少しだ」「がんばれー」と感動や期待が声になり、クラスの子どもたち全員が一つの思いで盛り上がったと聞きました。

もちろん、観察している間に、図鑑を見てはいろいろな知識を得ることはしていますが、図鑑では感じられない、時間の流れや幼虫の変化を実感として感じとることができ、子どもたちの興味や好奇心、想像力は図鑑以上に高まったと思います。

他にも、「いないいないばあ」「おかあさんといっしょ」「つくってあそぼ」「みいつけた」などの番組があります。保育者や友達と一緒に“たのしい”“おもしろいね”と同じ経験ができたり、“やってみたい”“作りたい”と子どもの好奇心を刺激したり、自分の知っていることがどうなのを確認したり、“もっと知りたい”“どうして?”という思考力や科学の目を培ったりする生活の力となっていきます。番組や内容を研究し、子どもの年齢、時期、興味などに合わせて保育に取り入れてみるのもよいのではないのでしょうか。絵本とは違って、私たちも子どもたちと一緒に見ることができ、子どもの側からいろいろな思いを感じとることができる一つの機会になると思います。



- ・質の高い本物をいかに子どもに見せるか
- ・見せることで自由な発想の妨げにならないか
- ・見せるタイミングはいつがいいのだろうか(経験前、経験中、経験後)など課題もあります。

私たちは、子どもにとってどうあるとよいのかを常に考え、無理なく取り入れていきたいものです。

第43回 愛知県幼児視聴覚教育研究大会報告

「生き生きと輝け かけがえのない いのち」

～環境保育を通して～

発表園 昭和保育園(名古屋市)

日時 平成23年10月26日(水)

会場 中村区役所ホール

3歳児—みんなで遊ぶ楽しさ「みいつけた!」

4歳児—「つくってあそぼ」で作ってあそぼう!

5歳児—「しぜんとあそぼ」を通して触れた
生き物の不思議な世界

- 3歳児は「友達と一緒にいる喜び、一緒に遊べる感動を共有する」をねらいとしてEテレ「みいつけた!」の番組と一緒に視聴し、一緒に遊ぶことの楽しさを体験した実践報告がされた。改めて「同一体験」の大切さや必要性を実感できた。
- 4歳児は「自ら表現する喜びを味わう」をねらいとし同一視聴を経験してお互いに刺激し合い、作ることの楽しさを 共感できるようになった。
- 5歳児は「しぜんとあそぼ」の視聴を通して、生き物に興味や関心を持ち、生態を知る中で生き物の不思議な「世界に触れる」ことをねらいとして視聴中の子どもをつぶやき(心の揺れ)に共感することで更に関心が高まった。



年長による

マスゲームを披露

手話による歌も披露

シンポジウム

「これからのEテレを考える」

■司会・講評

相山女学園大学 教育学部
子ども発達学科教授
石橋 尚子 氏

■シンポジスト

NHKエデュケーショナル
こども幼児部 専任部長
大谷 聡 氏

愛幼視研究委員
研修保育園園長
野田 久美 氏

昭和保育園

加藤 千明、長谷川 昌子、清水 亮次、升田 結美、近藤 早苗



- ・受け身ではなく積極的なツールとして放送を使用していた。
- ・制作者としては、教材としてではなく放送の位置づけと子どものやりとりの中で使いやすいものを作っている。
- ・一緒に観る、共に観ることの大切さを伝える
- ・長く観るよりは楽しんで想像しながら、会話をふくらませることが重要。
- ・テレビ視聴を通して同年齢の子どもと「同一体験」ができる
- ・保護者が加わることで安心感が生まれ、それらを土台として興味や関心、更には知的好奇心や探究心が揺さぶられる。

記念講演 演題 「こどもたちを育む、守る」

名古屋掖済会病院

小児科部長 長谷川 正幸 氏



- 小児の感染症は自然治癒する、それを助けるのが周囲の大人の役目
- 重症化する可能性がある児に対しての治療を行っていくことが重要
- マイコプラズマ感染症は、細菌とウィルスの中間体と言われるが、立派な細菌。自然治癒するが一部重症化
- 発達障害は、境界の不明瞭さあり診断が難しい。
- こどもをのびのびと育てたい。そのためには、過敏にならないで自然に任せることも重要
- 「治す(直す)」のではなく、治るための手助けをしてあげたい
- こどもにとっていいことをしてあげたい
- 子どもに接する大人は少々「青く」てもいいのではないかな？

平成23年度 教育放送企画検討全体会議レポート

平成23年12月11日(月)に東京のNHK放送サービスセンターで、文科省をはじめ各校種の代表者とNHKの番組制作関係者とで平成24年度の学校放送番組についての会議が行われました。愛知県幼児視聴覚教育研究会(愛幼視)からも1名が出席しました。

幼稚園・保育所の代表からは、番組の放送時間が現行の『午後3時45分から午後4時まで』というのは、利用しづらいという意見が出ました。愛幼視からも同様の意見がありましたので、幼稚園・保育所の要望と言ってもよいようです。

NHKではこの会議の意見を参考に新年度の番組について、放送時間を含め総合的に検討しています。

NHK制作側は、保育の現場でのより多くの利用を望まれています。そのためには幼稚園・保育所としては、NHK制作側に保育現場の声を受け止めてもらえたらと思います。

友達や保育者と一緒に見るテレビの楽しさのために、皆さん方の声を集めて『要望』としてNHKに働きかけていきましょう。

ご意見は、NHK名古屋放送局事業部内愛幼視事務局(052-952-7070)までお寄せください。幼児番組については <http://www.nhk.or.jp/kids/> キッズワールドをご覧ください。

ご案内

平成24年度

第44回 愛知県幼児視聴覚教育研究大会

「テーマ」

見て、聴いて、感じる心をはぐくむ(仮題)

日時 平成24年11月2日(金) 9:15~16:00

会場

午前の部 公開保育 名古屋市立第二幼稚園

〒464-0858 名古屋市千種区千種三丁目4-1
TEL 052(731)3510 FAX 052(731)5966

午後の部 名古屋市千種文化小劇場

〒464-0858 名古屋市千種区千種三丁目6番10号
TEL 052-745-6235 FAX 052-745-6236

スケジュール(予定)

9:15	9:30	11:00	13:00	14:30	16:00
受付	公開保育	昼食 会場移動	受付 開会式	研究発表 指導講評	講演 閉会式



地下鉄有楽町線千種駅下車 北へ約400m、
地下鉄有楽町線千種駅(有楽町線)より徒歩3分

編集後記

『絆』をよく見、よく聞き、あらためて実感する今日この頃です。親子の『絆』を基に、保育園・幼稚園では友だちや保育者たちとの『絆』が結べるよう、共に経験し、共に感じるものがたくさんできたらいいなあと思います。

連絡先

NHK 名古屋放送局事業部内
愛知県幼児視聴覚教育研究会 事務局
〒461-8725 名古屋市東区東桜1-3-3
TEL 052-952-7070 FAX 052-952-7036